

English Letters

英語通信② 文責 古荘

August 2024

夏休みも気づけば折り返しです。8月に入ってからには本当にあっという間に時間が溶けていきます。

さて、私事にはなりますが、本校は教育課程特例校であり、そこでの英語専科として何かもう少しできることはな
いかと考え、こちらの「English Letters」不定期（2、3週間に1度ほどは・・・）で発行させていただこうと予
定しています。書籍や研修等で知った外国語指導に関するあれこれを、僭越ながら先生方に共有させていただけたら
と思います。ご存じの内容も多々あるかと思いますが、お時間ある際にご一読いただければ幸いです。

【小学校における音声指導】

最初のトピックは、音声指導についてです。英語の4技能「話すこと」「聞くこと」「読むこと」「書くこと」を伸ばしていくためには、やはり「聞くこと」が基本です。ただ、たくさん聞かせるだけではなく何を、どのように聞かせるかも大事にしたいものです。

例えば不定冠詞の a を意識させるためには、ひたすら “I have a pen.” “I have a notebook.” …と単数の表現ばかり聞かせるのではなく、” You have a red pen. You have five pencils.” など、単数形と複数形の表現を織り交ぜながら聞かせることで、「1つだと a なのかな？」と意識させることにつながっていきます。「単数のときは不定冠詞 a を使って・・・」と説明をしなくても、正しい音を聞かせることが「文法を教えること」につながっていきます。

また、日本人は外国語を聞いてそれをカタカナに変換しようとする傾向があるので、五十音とは違う、外国語の特徴的な音の出し方を子どもたちに捉えさせ、そのまま学習できるような授業が大事になります。指導者（担任・専科）の発音ももちろんですが、ALT やデジタル教材等の積極的な活用も有効です。特徴的な音の出し方が、しっかりと子どもたちの耳に届くようにする方がいいです。

〔「英語教育」6月号 30—31 ページより抜粋〕

時事英語「英語になった日本語”Mochi”」

英語になった日本語はたくさんありますが、米国では Mochi も使われているようです。あちらでは「雪見だいふく」のようなアイスが Mochi という名前で売られているそうです。もちろん、もち米を使った rice cake の意味合いもあるようですが、「Mochi=アイス」のイメージが強いそうです。さらには、「Mochinut」という名称のチェーン店もあるそうで、こちらにはいわゆるポンデリングそっくりのドーナツを扱っているようです。

こういった文化的な面から英語に触れてみるのも面白いですね。子どもたちとの学習の中でも、いろんな角度から英語に興味をもつことができるようにしていきたいものです。